

「尊厳を守る（権利擁護）」を考える



岡 高齢福祉課 地域ケア推進係

◆「尊厳を守る」ってどういうことだろう？

私たちは日々、どこに住み、何を食べ、何時に寝て、どこへ行くか、何にお金を使うかを選びながら、生活しています。これらを決定するのは、自分自身であり、暮らし方は一人ひとり異なります。このように、地域で尊厳のある生活を送ることは、全ての人に「権利」として保証されています。「尊厳を守る」ということは、「その人らしさを尊重し、自分のことを自分で決め、自分らしく生きることを大切にする」と言い換えることができます。

◆「良かれと思って…」こんな経験、あなたにはありませんか？

- ①本人のことは、家族が一番よく分かっているからと、家族が良かれと思って、本人の代わりに全部決めてしまっている。
- ②ご本人が何らかの意思を示していても、周囲の人が、「客観的にみて適切ではない、不合理だから」と考え、ご本人の意思に反した決定をしている。

家族や支援者からのこのような扱いが続くことで、ご本人は、「自分のことを自分で決め、自分らしく生きる」ことをあきらめるようになってしまうかもしれません。



◆「自分のことを自分で決め、自分らしく生きる」を応援するためのポイント

- ①「〇〇したい！」と思えるための支援
 - ご本人が「〇〇したい！」と思えるために、必要な情報が説明されていますか。
 - 言葉だけでなく、パンフレット等で文字や図、表を使って説明していますか。
 - 本人が理解している内容に、事実と違うことはありませんか。
- ②「〇〇したい！」と言えるための支援
 - ご本人と時間をかけてコミュニケーションを取っていますか。決断を急ぎ、ご本人を焦らせていませんか。
 - ご本人が慣れている場所で、話しやすく安心する人が聞き取ったり、同席するなどの配慮をしていますか。
 - ご本人の考えは、時間の経過や状況等によって変わることもあります。時間を置いて、繰り返し確認していますか。
- ③『〇〇したい！』を実現するための支援
 - ご本人のできることを最大限に活かせていますか。
 - ご家族、ご近所、専門職などチームによる支援や社会資源（介護保険制度や成年後見制度など）の利用など、利用できる様々な手段の検討をしていますか。



◆権利擁護の一つの方法に、「成年後見制度」があります

「物忘れがひどくなって、通帳やお金の管理が心配」「認知症で一人暮らしの親を悪質商法から守りたい」等の心配はありませんか？成年後見制度は、認知症・知的障がい・精神障がい等によって、判断能力に心配がある方を対象に、家庭裁判所が選んだ援助者（成年後見人等）が、本人のために活動し、財産と生活を守る制度です。制度に関する相談は、市や地域包括支援センターが受けています。お気軽にご相談ください。

成年後見制度
利用支援事業

